

そうだ、
きさいち
植物園
に行こう！

Let's go to Kisaichi
Botanical Garden

牧野富太郎の植物画から

約1500種以上の植物を発見・命名し、「日本の植物分類学の父」と呼ばれる牧野富太郎博士。現在放映中のドラマの主人公のモデルであり、鋭い洞察力と緻密な描写で植物を正確に写生しています。今年度は、博士の描いた植物画と当園に咲く実物を見比べてみます。



高知県立牧野植物園提供



ホオノキ

分類: モクレン科モクレン属
夏期: 4月下旬～5月上旬

日本全国に分布する落葉高木で、日本自生の樹木の中では最大級の葉と花をつける。この大きなタマゴ型の葉を使った岐阜県飛騨高山地方の「朴葉味噌」が有名。初夏には、枝先に芳香がある黄白の大きな花が上向きに開く。樹皮を乾燥したものは、厚朴または和厚朴として生薬に使用される。葉に食物を含んだことから「包の木」の名がついたと言われる。



高知県立牧野植物園提供

大阪公立大学附属植物園(愛称:きさいち植物園)

☎891-2059 交野市私市2000(私市駅徒歩6分) HP <https://www.omu.ac.jp/bg/>

開園時間 9:30～16:30(入園は16:00まで)

休園日 月曜日(祝休日の場合は開園)

入園料 大人350円/大阪府在住で65歳以上の人150円(住所と年齢が分かる公的証明書提示が必要)中学生以下無料

駐車料 普通車500円/マイクロ1,000円



LET'S GO

交野に残る 家康の足跡



おだのぶなが とよとみのおよし
織田信長、豊臣秀吉と並ぶ三英傑
の1人、徳川家康。交野市は家康の
人生に度々かかわっており、今も史跡
が残っています。家康ゆかりの地ととも
に交野市とのつながりを紹介します。

星田の伊賀越え伝承

伊賀越え伝承は星田の郷土史家の故・西井長和さんが著書「徳川家康伊賀逃走記」で紹介しています。これによれば家康は、本能寺の変を事前に察知しており、家臣とともに変当日(6月2日)に堺を出立し、深夜に交野に到着したとされ

ています。なお、先月紹介した「石川忠総留書」によると、家康が変の発生を知り伊賀越えを始めたのは6月3日とされており、星田の伝承とは異なる点もみられます。

伝 家康ひそみの藪

星田に到着した家康一行は星田妙見宮北側の竹やぶに身を潜めました。追っ手から逃れ、家康一行が身を隠した竹やぶは「家康ひそみの藪」と伝えられました。現在は妙見坂小学校敷地にかろうじて姿をとどめています。1960年代と現在の航空写真を比べてみると、学校建設前はやぶや森が広がっていたことが分かります。交野古文化同好会が石碑や看板を設置し、伝承の地の保存に努めてきました。



1960年代



現在

(出典:国土地理院地図)

平井家のもてなし

星田で家康は星田村の長・平井家に助けを求めました。なぜ平井家を頼ったのか定かではありませんが、平井家は家康と同郷であり、知り合いであったのではとされています。平井家は急いで大釜で米を炊き、大鶴が描かれた立派な

皿に大量の握り飯を盛り付けて家康たちに差し入れました。さらに村内から信頼できる村人2人を水先案内人として派遣し、家康一行の逃亡を助けました。